

本の紹介

最新科学の明かす言葉の謎

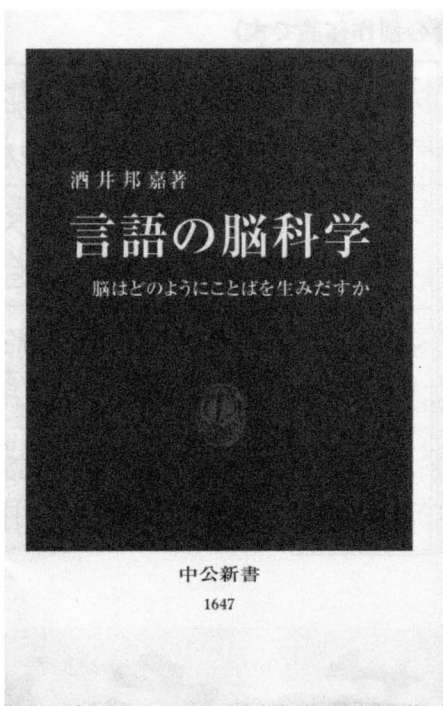
酒井邦嘉著 「言語の脳科学」

今回編集部は、東京大学駒場キャンパスの酒井邦嘉先生の研究室を訪れました。

酒井先生は、現在人類に残された最大の秘境と言われる「脳」について最先端の研究をされている先生です。特に人間が言葉をどのように獲得していくかについての科学的な視点からの研究成果は、世界的にも評価が高く、今注目の科学者の一人です。編集部の質問に対して、一つ一つ丁寧にお答えいただき、私たちも益々「書く」ことに対して、しっかりとした考えを持つて取り組んでいかなくては、と

心を新たにしました。

「言葉は人の文あや」とか「書は心画なり」と言いますが、そんな古典的な言葉も半ば現実味を持つて科学的に証明されるのではないかと期待がふくらみます。今回左に紹介しました本は、酒井先生の近著です。「言語の脳科学」と難しそうな題名がついていますが、一般の人にも読み易い内容になっており、編集部お薦めの一冊です。酒井先生自身も書を愉しまれるとのこと、今後のご研究の進展に目が離せません。



定価 本体900円+税

URL <http://mind.c.u-tokyo.ac.jp/>

酒井邦嘉(さかい・くによし)

1964年(昭和39年)、東京に生まれる。87年、東京大学理学部物理学科卒業。92年、同大学院理学系研究科博士課程終了。理学博士。同年、同大医学部助手。95年、ハーバード大学医学部リサーチフェロー。MIT「言語・哲学科訪問研究員を経て、現在、東京大学大学院総合文化研究科助教授。著書「心にいどむ認知脳科学」(岩波書店)